

木に宿った仏をあらわす 西光寺の木造薬師如来坐像（熊本県指定重要文化財）

☎ 社会教育課 文化係
☎0968・34・3047



ヒノキ材 一本造
像高 84.0cm
平安時代後期 11～12世紀
和水町・西光寺蔵

頭部をやや後方に傾け、左手に薬壺（やくこ）を持つ薬師如来像です。東部から地付きまでをヒノキの一枚から彫出し、両手の肘先や脚部は別材を矧ぎ付けています。伏し目がちの穏やかな表情や彫りの浅い衣文は平安時代後期に典型的な作風。特に注目されるのは背面の表現で、例えば螺髪（らぼう）は正面や側面では一粒ずつ丹念に彫りあらわしていますが、後頭部では途中で彫るのを止めたかのように平彫りになっています。衣文線も背中にはほとんど刻まれていません。

こうした表現は、しばしば霊木化現（れいぼくけげん）のさまをあらわすと考えられています。霊木化現とは、仏が樹木に宿り、徐々にその姿を現す過程を彫刻で表現することを行い、本像もまた未だ完全に姿を現していない仏を表現していると考えられます。

『肥後国誌』等によれば、西光寺は奈良時代の名僧・行基の開基で、本像は南関の西福寺本尊像、瀬高談議所の本尊像とともに、行基が同一の木材から彫り出したと伝えられています。様式から行基時代の制作とみなすことはできませんが、本像の霊木化現を思わせる表現が、行基作の伝説を生みきっかけになったのでしょうか。

（『菊池川二千年の歴史 菊池一族の戦いと信仰』菊池川二千年の歴史展実行委員会2019より）

旬のものを簡単アレンジ 「さっぱり美味しい冷製トマトスープ」

☎ 健康福祉課 保健予防係
☎ 0968・86・5724



【材料（4人分量）】

おくら……………40g
トマト……………180g
水……………600cc
玉ねぎ……………40g
コンソメ……………8g
おろしにんにく……………2g
A { 黒こしょう……………少々
酢……………20cc

【作り方】

- ① おくらはゆでて小口切りにする。
- ② トマトは湯むきして角切りにする。
- ③ 鍋に分量の水を入れ、火にかけ薄切りにした玉ねぎを加える。
- ④ 玉ねぎがやわらかくなったら、コンソメとおろしにんにくを加えて混ぜる。
- ⑤ ②とAを加え入れ、粗熱を取り冷蔵庫で冷やす。
- ⑥ 器に盛り付けて、おくらをのせる。

ひとくちメモ&栄養コメント

酢を利用することで、減塩効果と体の疲労回復に繋がります。

文芸広場

菊水短歌会

老ひるとは刻のすぎゆきあぢさゐの
散る事もなき花の黒暗 東 左千子
だんだんと難しくなるパズル問
頭の体操ねぢり鉢巻 池田たかお
株分けて友植えくれし黄の花の
根は張りいしや大粒の雨 坂口志げ子
亡母の割る西瓜に一早手を出して
叱られていし妹も逝く 石山 幸子
この小指可愛かったよ若き日は
ぶくぶく皺々老の手撫でる 阪野 章子
町花の向日葵あちこちに植ゆ皆の手で
空いつ杯の向日葵の町 荒木 智子
母命日二人で恒例墓まいり
今日は一人で淋しさつのる 坂本 竹子
かなしき原俳句会
蚊遣火の匂ひ楽しく懐かしく 誠一
潮騒を切りて涼しき舳先かな 貞子
白扇に十七音の散らし書き 明
亡き人を偲び足らざる新盆会 しん子
爽やかに水禍のボランテア終はる 淑乃
四歳の豪の記憶や終戦日 康子
庭下駄を履けば来てゐる今朝の秋 弘子

菊水俳句会

簾ゆれ手元の陰がおどりよる
鬼百合の咲きみだれたる古き墓所 原 香代子
さりげなく扇子の風をもらいけり 池田 松子
梅雨明けを一勢に告げ朝の蟬 中山ミサト
涼風の曲り角なる地藏堂 永田 紘彦
肥後狂句
元氣もん 家風も嫁が切り替えた 池田 茜
元氣もん 九十なつても医者知らず 福永すみれ
元氣もん 命おしまず登山さす 井上りんどう
ハツとして 踏んだブレーキ遅かった 高木せいや
馴れたもん 泣くひま無かねさす注射 瀬上 歌子
人は人 我が一番可愛かつ 二瀬 桔梗
ひとりもん 早めに避難してきたつ 石原かわせみ
ひとりもん 器用があだになつとらす 庄山 道草

和水町公民館図書室だより

☎ 中央公民館図書室 0968・86・2022
三加和公民館図書室 0968・34・3047

開館午前9時～午後10時（年末年始除く） 1回につき1人5冊まで、2週間借りることができます。

今回は新聞やテレビで紹介された本とコロナ渦で挑戦してほしい本を紹介します。今年度はコロナに振り回されて終わりそうですが、在宅時間で本を読んでもらえたら嬉しく思います。もう少し先になりますが、コロナ渦で図書室も変わります。楽しみにしていってくださいね。



「老いてこそデジタルを。」
著者：若宮 正子

電子レンジもIT調理器もクックパッドも無かった熟年世代の方々は、停電や断水にも耐えて生きる知恵を持っています。将来「アナログ名人」の作業をコンピューターに教えるために「ベテラン」の存在は必要です。『私は年だから無理無

理』ではなく70代、80代は伸び盛りです。トライしてみませんか？老後が楽しくなりますよ。



「還暦からの底力」
著者：出口 治明

人生100年時代を楽しむためには、健康であることが大前提です。健康寿命を延ばすには、規則的な生活をもたらし頭と身体を使う働くことが一番良いそうです。高齢化社会の将来は暗い話ばかりですが、自分次第で人生は楽しく過ごせるそんな問題を考える本です。